

基本目標 4 身近な学びと交流のあるまちをつくるために

施策 14 市民スポーツの振興

目的

《対象》市民

《意図》だれもがスポーツに親しみ・楽しむことができる、スポーツを通して交流がはぐくまれる

施策の方向

〇年齢や障害等を問わず、広く市民がスポーツに親しみ、楽しめる環境を整備します。また、スポーツを通して市民の交流が盛んになるまちを目指します。

施策の達成状況

まちづくり指標	基準値	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	目標値
体育施設の年間利用者数	93 万 1,927 人 (H25)	93 万 1,927 人	96 万 768 人	103 万 2,602 人	106 万 2,566 人	-	95 万人 (H30)
運動を週に 1 回以上行っている市民の割合	51.8% (H26)	55.9%	51.8%	60.5%	61.7%	62.7%	70.0% (H30)
FC 東京等と連携したスポーツ事業の参加者数	861 人 (H25)	861 人	700 人	889 人	621 人	-	900 人 (H30)

その他

- 〇オリンピック交流事業、講演会の実施（平成 28 年度～）
- 〇パラリンピック競技である「ボッチャ」の推進（体験会等の開催）
- 〇府中市・三鷹市と連携したラグビーフェスティバルの開催（平成 28 年度～）
- 〇市民・関係団体等との協働によるまちなかラグビーの展開 など

■ 現状と課題

- 〇平成 23 年 8 月に国及び地方公共団体の責務及びスポーツに関する施策の基本となる事項等を定めたスポーツ基本法が施行されました。また、国は、平成 24 年 3 月に今後の日本のスポーツ施策の具体的な方向性を示す「スポーツ基本計画」を、平成 29 年 3 月には「第 2 期スポーツ基本計画」を策定しました。
- 〇東京都では、平成 30 年 3 月に東京都スポーツ推進総合計画を策定し、2020 年の先を見据え、都民のスポーツ実施率 70%を達成し、誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しみ、スポーツの力で人と都市が活性化する「スポーツ都市東京」の実現を目指しています。
- 〇市内には、ラグビーワールドカップ 2019TM日本大会や東京 2020 大会の競技会場となる東京スタジアム（味の素スタジアム）や武蔵野の森総合スポーツプラザ等の大規模スポーツ施設をはじめ、各地域の身近なスポーツ施設が立地しており、多摩のスポーツの一大拠点として、多くの市民がスポーツに親しみ、楽しめる環境が整備されています。
- 〇市のスポーツ施設は昭和 50 年代に整備した施設が多く、公共建築物維持保全計画と公共施設等総合管理計画に基づき、市民が安全・安心に使用できるよう、老朽化した施設の改修や維持保全を図っていく必要があります。
- 〇調布市が実施しているスポーツ関連事業等の参加者数は横ばいであり、引き続き、より多くの市民が日頃からスポーツに親しめるよう、障害者スポーツの普及・推進を含め、誰もがスポーツに参加できる機会の充実を図っていく必要があります。
- 〇平成 30 年に創設から 20 年を迎える FC 東京は、調布市と連携して様々な取組を実施しており、引き続き、市は、市民がスポーツに親しむ機会や交流をより充実させ、市民スポーツの振興、青少年の健全育成、地域振興等のまちづくりを協働で推進する必要があります。
- 〇プロバスケットボールチーム「東京サンレープス」の選手による実技指導や、調布市をホームタウンとするアメリカンフットボールチーム「リクシルディアーズ」との交流イベント、まちなかラグビー、アスリート交流事業などを通じて、多様な主体と連携し、レガシーの創出につなげていく必要があります。

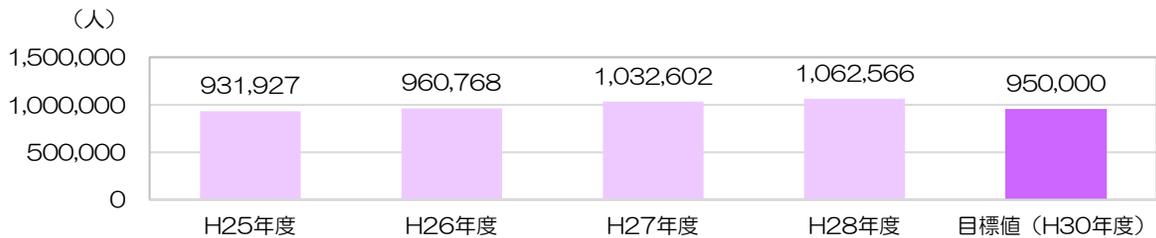
■ 次期基本計画策定に向けた主なポイント

- 年齢や障害等を問わず、だれもが気軽にスポーツや健康づくりに参加できる機会を提供し、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進を図っていく必要があります。
- 「2020年に向けた調布市アクション&レガシープラン」に基づき、東京2020大会組織委員会をはじめ、国や東京都の関連計画とも連動しながら、スポーツ分野をはじめとする様々な取組を通じて、多様な主体と連携し、スポーツボランティアの確保・育成、レガシーの創出につなげていく必要があります。
- 市民の安全確保や快適なスポーツ環境の提供を行うために、老朽化した施設の修繕や改修を行いながら、引き続きバリアフリーへの配慮や市民ニーズに沿った魅力ある施設の提供に努めていく必要があります。

14-1 スポーツ環境の整備

【まちづくり指標】 体育施設の年間利用者数

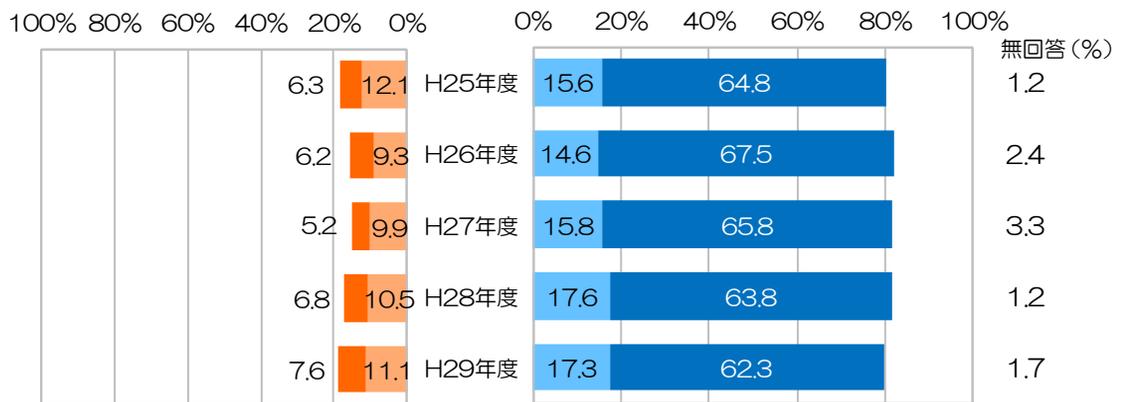
利用者は年々増加しており、平成26年度以降目標値を上回っています



資料：調布市事務報告書（スポーツ振興課）

◆1年間にスポーツ施設を利用した市民の割合

「利用したことがない」と答えた市民は平成25年度以降減少傾向にありますが、依然として6割を上回っています

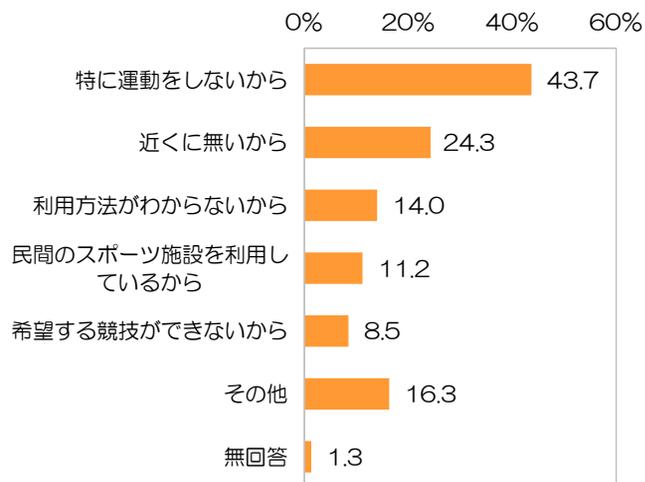


■ 定期的にご利用している ■ たまにご利用している ■ ほとんど利用していない ■ 利用したことがない

資料：調布市民意識調査

◆スポーツ施設を利用しない理由（平成 29 年度）

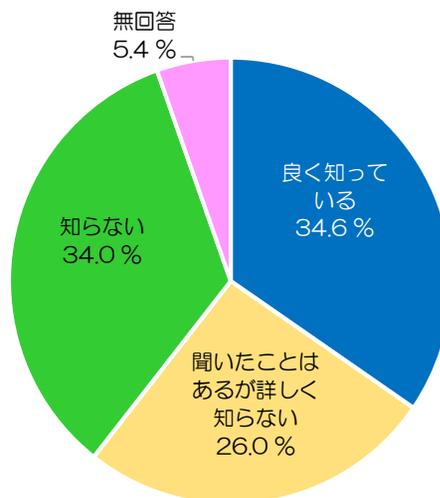
スポーツ施設を利用しない理由として「特に運動をしないから」と答えた市民が 4 割を上回っています



資料：調布市民意識調査（平成 29 年度）

◆武蔵野の森総合スポーツプラザのオープンを知っている市民の割合（平成 29 年度）

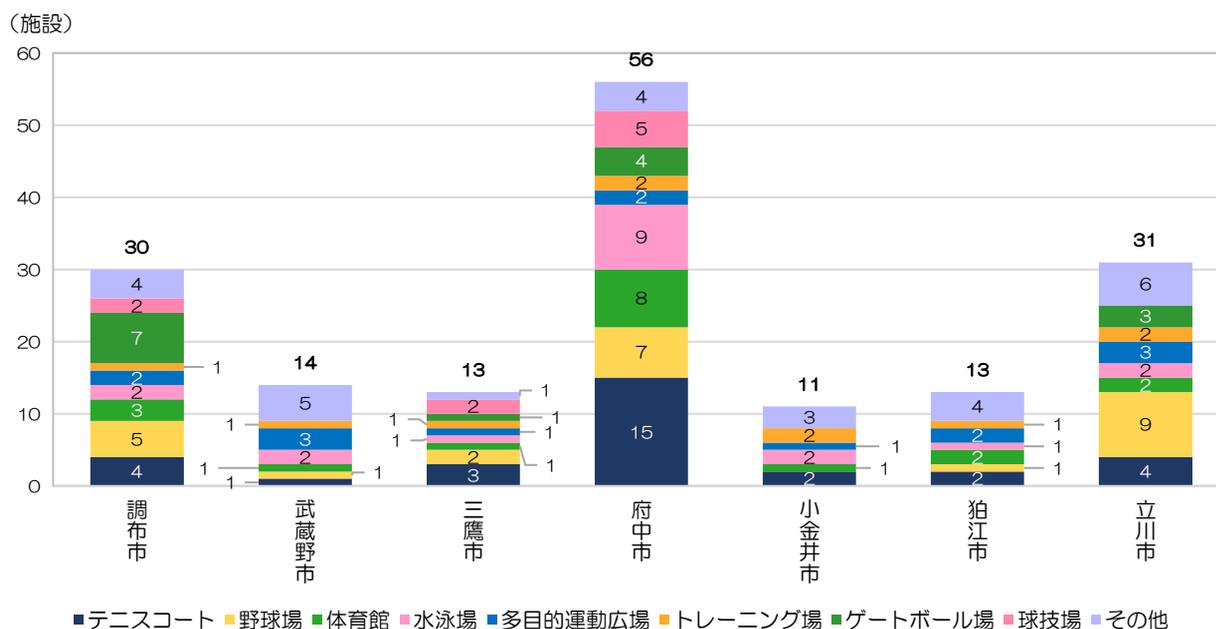
認知度は約 6 割となっています
今後も周知を図る必要があります



資料：調布市民意識調査（平成 29 年度）

◆体育施設数

調布市の体育施設数は、近隣自治体の中で 3 番目に多くなっています



資料：東京都生活文化スポーツ局スポーツ振興部
スポーツ計画課「東京都における公立スポーツ施設」

※多摩地域 26 市における施設数上位 8 施設を記載し、それ以外の施設は「その他」に分類

◆**体育施設一覧**

調布市内には 23 箇所の体育施設があり、多くは屋外の施設となっています

施設名	所在地	施設種別
調布市総合体育館	深大寺北町 2-1-65	屋内（大体育室 1 室、小体育室 1 室、25 メートルプール、トレーニング室、ランニングコース、会議室 2 室）
市民西調布体育館	上石原 2-4-1	屋内（体育室 2 室、ミーティングルーム 1 室）
市民西町野球場	西町 290-3（都立武蔵野の森公園内）	屋外（軟式野球場 1 面、少年野球場 2 面、人工芝サッカー場 1 面）
市民西町少年野球場		
市民西町サッカー場		
市民野球場	染地 2-43-1	屋外（軟式野球場 1 面、50 メートル・25 メートル・変形・幼児用プール各 1、砂入り人工芝テニスコート 4 面）
市民プール		
市民多摩川テニスコート		
市民深大寺テニスコート	深大寺北町 4-4-3	屋外（砂入り人工芝テニスコート 2 面、クレイテニスコート 1 面）
市民緑ヶ丘テニスコート	緑ヶ丘 2-63-1	屋外（砂入り人工芝テニスコート 3 面）
南部ゲートボール場	染地 2-43-1	屋外（砂入り人工芝コート 1 面）
北部ゲートボール場	深大寺北町 4-4-3	屋外（クレイコート 1 面）
西調布ゲートボール場	上石原 2-4-1	屋外（クレイコート 1 面）
富士見町ゲートボール場	富士見町 3-4	屋外（砂入り人工芝コート 1 面）
染地ゲートボール場	染地 3-1-816	屋外（クレイコート 1 面）
緑ヶ丘ゲートボール場	緑ヶ丘 2-64-1	屋外（砂入り人工芝コート 2 面）
つつじヶ丘ゲートボール場	東つつじヶ丘 2-33-5	屋外（クレイコート 1 面）
東つつじヶ丘ゲートボール場	東つつじヶ丘 3-19-1	屋外（砂入り人工芝コート 1 面）
市民大町スポーツ施設	菊野台 3-27-40	屋外（大運動場 1 面、砂入り人工芝テニスコート 2 面） 屋内（体育館 1 館、会議室 1 室）
調布基地跡地運動広場	西町 290-3 ほか	屋外（野球場 5 面、少年野球場 3 面、ソフトボール場 1 面、サッカー場 2 面、少年サッカー場 1 面）
多摩川児童公園内運動施設	多摩川 3-75 先	屋外（少年野球場 5 面、ソフトボール場 2 面、サッカー場 1 面）
武蔵野の森総合スポーツプラザ	西町 290-11	屋内（メインアリーナ、サブアリーナ、多目的スペース、プール、トレーニングルーム、フィットネススタジオ）
都立野川公園	野水 1・2 丁目	屋外（人工芝テニスコート 8 面、ゲートボール場 2 面）

資料：スポーツ振興課、武蔵野の森総合スポーツプラザ

14-2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

【まちづくり指標】運動を週に 1 回以上行っている市民の割合

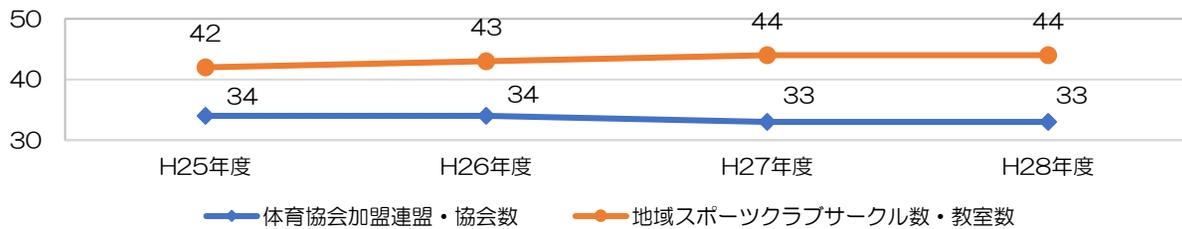
平成 26 年度以降割合は年々増加しており、市民個々でスポーツをする習慣が定着しつつあることがうかがえます



資料：調布市民意識調査

◆スポーツ関連団体数と地域スポーツクラブの設置状況

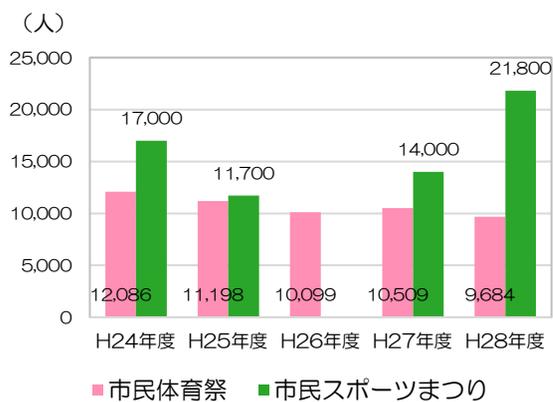
体育協会加盟連盟・協会数と地域スポーツクラブのサークル数は、ともに横ばいで推移しています



資料：調布市事務報告書（スポーツ振興課）

◆スポーツイベント、スポーツ振興事業の参加者数
スポーツイベント（延べ）

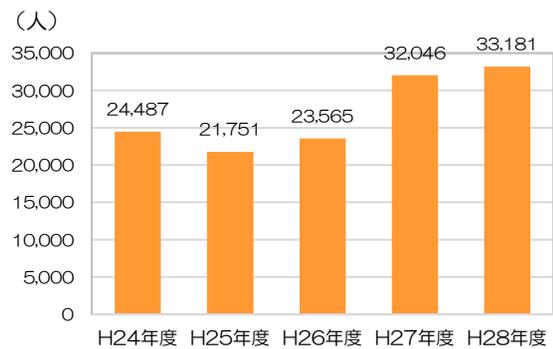
市民体育祭への参加者は年々減少傾向にありますが、市民スポーツまつりは平成 27 年度から増加しています



資料：調布市事務報告書（スポーツ振興課）
※平成 26 年度市民スポーツまつりは台風のため中止

◆スポーツ振興事業（リフレッシュ体操スクール）*

平成 25 年度から参加者数は増加しています

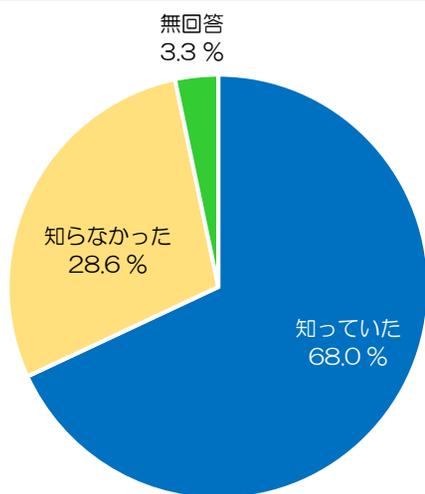


資料：調布市事務報告書（スポーツ振興課）

※リフレッシュ体操スクール：日ごろ運動する機会が少ない 15 歳以上（中学生は除く）の市民を対象に、運動するきっかけづくりとして行っている事業で、チェアエクササイズ、リズム体操、ストレッチなど、自宅で行えるような方法を学ぶ。

◆調布市で東京 2020 大会の競技種目の一部やラグビーワールドカップ 2019™ 日本大会の開会式や開幕戦等が開催されることを知っている市民の割合（平成 29 年度）

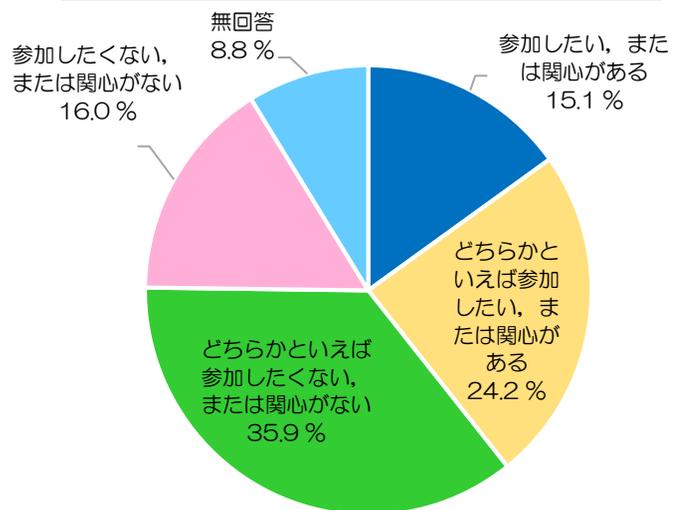
大会開催の認知度は約 7 割となっています



資料：調布市民意識調査（平成 29 年度）

◆調布市における東京 2020 大会に向けた取組に参加したい・関心がある市民の割合（平成 29 年度）

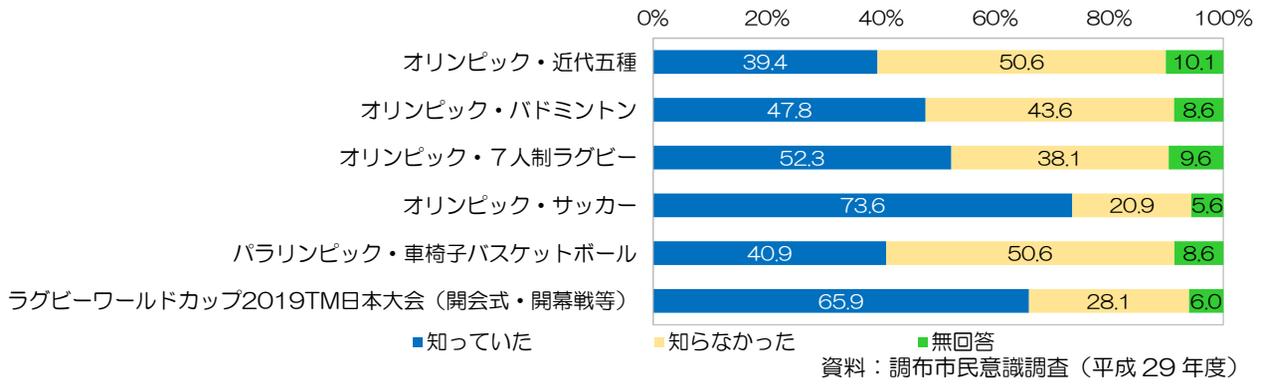
「どちらかといえば参加したくない、または関心がない」と答えた市民が 3 割を超えて最も多く、「参加したくない、または関心がない」と答えた市民とあわせると 5 割を上回っています



資料：調布市民意識調査（平成 29 年度）

◆調布市で開催される競技の認知度（平成 29 年度）

オリンピック・サッカーの認知度が最も高く、7 割を超えています



14-3 FC 東京等とのパートナーシップ

【まちづくり指標】FC 東京等と連携したスポーツ事業の参加者数

平成 27 年度は増加し目標値に近づいていますが、平成 28 年度は減少し平成 27 年度の 7 割程度となっています。今後はより多くの市民に参加いただけるような事業内容の工夫が必要です。



多様な主体との連携事例

府中調布三鷹ラグビーフェスティバル 2017

ラグビーワールドカップ 2019™日本大会、東京 2020 大会 7 人制ラグビーの競技会場となる味の素スタジアムの近隣自治体 3 市（調布市・府中市・三鷹市）が実行委員会を組織し、イベントを開催しました。今回で 2 回目となるこのイベントでは、小学生を対象としたタグラグビー教室や、女子セブンズのトーナメントマッチのほか、ウィルチェアーラグビーやラグビー体験ができるエリアや各市の観光PRなどの出展ブースなど実施しました。多くの市民が来場し、ラグビーを身近に感じてもらえる良い機会となり、両大会に向けて新たなラグビーファン層の開拓と地元市民の機運醸成を図りました。



<ラグビーフェスティバルの様子>

【所管課】

行政経営部 オリンピック・パラリンピック担当

【協働のパートナー】

ラグビーフェスティバル実行委員会（府中市・調布市・三鷹市・東芝ブレイブルーパス）、調布市ラグビークラブ